

# くもベラボ

くもベラボ  
(杉山 武志・花谷 和志)

## 1. 丹波篠山市雲部地区について

はじめに、くもベラボでお世話になっている丹波篠山市雲部地区の概要を簡単に記しておきたい。雲部は、創造都市／農村政策が推進されている丹波篠山市の東部、城東地域に位置する。雲部地区には行政統計上 9 集落あり、人口は 834 人、世帯数 362 戸となっている（丹波篠山市統計書 2019 年度版）。自然、歴史、伝統文化（雲部車塚古墳、洞光寺など）などが息づいている。

## 2. 里山工房くもべ×くもベラボ

少子高齢化、人口減少のなかで少しでも現状を克服しようと試みる雲部では、活発なコミュニティビジネスが進められてきている。2010 年 4 月 1 日に近隣の日置小学校、後川（しつかわ）小学校と雲部小学校が統合され、城東小学校が開校した。この統合に伴い雲部小学校（以下「旧雲部小学校」）は「閉校」し、跡地活用をめぐる議論が進められるようになった。旧雲部小学校が閉校する以前の 2006 年 9 月に設立されていたくもべまちづくり協議会において、旧雲部小学校の跡地活用の議論が進められた結果、2013 年 8 月にはくもべまちづくり協議会の構成団体の一部（当時）として合同会社里山工房くもべが設立されている。くもベラボは、雲部を含む丹波篠山市東部 6 地区ともつながっているが、その中核的な連携先が里山工房くもべとなっている。

くもベラボは、里山工房くもべの皆さんと学生たちが今後のコミュニティビジネスをどう進めていくか、一緒に議論し学びあうプロジェクトとして 2015 年度より本格的に始動して 6 年目を迎えた。2020 年度は、コロナパンデミックの影響により、学生たちの多数が現地に入って活動することはかなわず、筆者の一人である花谷和志が丹波篠山市地域おこし協力隊（雲部地区）としてコミットメントすること以外、主だった活動は展開できなかった。

## 3. くもべまちづくり協議会のあり方検討委員会

一方で本年度は、筆者たち 2 名で、設立から 15 年を迎えるくもべまちづくり協議会の活動のあり方を検討する委員会に参加している。主なミッションは、まちづくり協議会のスリム化を前提とした組織再編、上述の里山工房くもべとくもべまちづくり協議会との関係性の再考、旧雲部小学校跡

地活用の新たな企画立案などとなっている。これらの検討が行われる背景には、多自然居住地域におけるまちづくり協議会の存立基盤の脆弱性への課題がある。くもべまちづくり協議会においても、設置後 15 年程度が経過したなか、思ったような活動ができなくなってきた担い手たちの葛藤や悩み、人材不足など深刻な問題も目立つ。改善策の提案に向けて、アンケート調査の集計作業、その結果を踏まえた今後の展望について、地元のアクターたちと議論を続けているのが本稿執筆時点の近況である。

少し学術的な話となるが、市町村合併を経験した多自然居住地域の今後をめぐり、まちづくり協議会の設置が全国で相次ぐものの、設置後のゆくえがどうなっていくのか、学界においてほとんど研究されてきていない。筆者たちとしては、これらの課題に対する議論を始める好機と捉えて、当該ミッションに 2021 年 5 月頃まで参加する。

## 4. 次年度の見通し

ただ、くもベラボの本流ともいえる「ガッツリとフィールドに入って学ぶ」プロジェクトは、再開の見通しが立っていない。コロナ禍が早期に終息する見込みがないなか、姫路環境人間キャンパスから遠方に位置する丹波篠山市で活動するくもベラボのような地域連携活動は、コロナ禍において成り立たなくなりつつある。くもベラボのあり方を見直す時期にきているのが現実といえる。

苦境が続くなか、先述の委員会の一環として、2020 年 11 月に久しぶり雲部地区の散策を行えたことがせめてもの救いであった。



図 1：旧雲部小学校にて委員会メンバーと  
(出所) 杉山撮影